

# みなとつぷ

Takanawa  
Community News Magazine

高輪地区情報紙

2018年3月  
Vol.35

三田4・5丁目・高輪  
白金・白金台

発行：高輪地区総合支所 協働推進課  
編集：みなとつぷ編集室



<http://www.city.minato.tokyo.jp/takanawachikusei/takanawa/koho/saishin.html>



表紙絵 「タイトル」 アマリリスとスイートピー 「作者」 島田 公子さん（高輪在住）

## CONTENTS

**2** 地域に生きる建築  
普連土学園120周年記念館

**3** この街にこの人あり  
服部 隆之 さん  
(作曲・編曲家)



**4 5** 地域のあしあと  
高輪地区の旧宮邸

**6** 地域で活躍する若者たち  
北里大学白金校舎薬学部茶道部

**6** 私だって地域の一員！  
シベリアン・ハスキー

**7** みなとつぷ子ども編集室

**8** 区からのお知らせ

## 次世代へ残したい地域の 大木

明治学院大学正門前、道路にはみ出して銀杏の大木がそびえています。車道にまではみ出して少しいる樹木は珍しいと思いい、その由来が気になって少し調べてみました。この銀杏は、以前、学院構内にあったようです。1921（大正10）年に正門前の道路の拡張工事があり、当時の学院総理（現学院長であった井深梶之助氏が、「町の風致の為に伐らない」と言う約束で東京市に無償で寄付した）そうです。学院が、道路側約3m幅の土地を譲渡するための条件であったそうです。工事前の道幅はつきりしませんが、銀杏の位置関係からみて道幅はかなり広がったと思われます。

その時の工事は、第一京浜から桂坂を通り、二本榎通りを横切って、明治学院と、白金小学校の正門前を通って目黒通りに至る道路整備の一部であったようですが、残念ながら工事の詳細は確認できませんでした。古い地図をもとに地域の変遷をみると、桂坂は、江戸時代から1921（大正10）年までは、北と西に二回曲がって二本榎通りに出ています。これは外敵の侵入を防ぐために造られた、いわゆる枡形道路に似た形です。ところが、1934（昭和9）年の地図では現在のように二本榎通りに真っすぐに出るようになっています。大正末から昭和初期にかけて、現行道路の原型が形づくられてきたことがうかがえます。

当時既に大木であった銀杏の木は、駕籠や牛馬・ちよんまげ姿の人々が行き交っていた江戸の道が、自動車・洋装の人々が行き交う東京の道路へと変貌していく様子を静かに見守っていました。それから約100年、銀杏は今なおそのみずみずしい生命力と存在感で、私たちに潤いや癒しを与えています。

高輪地区は、都心にもかかわらず緑の濃い地域とされています。公共の施設や神社仏閣の敷地だけでなく、歩道や小さな公園、個人宅やマンションなどの私有地にも大木を多く見かけます。普段はあまり気が付きませんが、散歩の途中などに根元や幹回りなどをよく見てみると、アスファルトで根元をびっちり塞がれていたり、塀に挟まれていたり、かなり窮屈そうな樹木も多く、「こんな狭い場所です」と、びっくりすることも度々です。私は、一見不自然にも見えるその姿に、一本でも多く残そうとしてきた人々の熱意と工夫を感じます。同時に、枝を剪定して樹形を整えたり、大量の落ち葉を処理したり、周囲に気を配りながら管理を担ってくださっている方々のご苦労を忘れることもできません。

樹木、特に長い年月を生きて、地域とともに歴史を刻んできた大木は、世代を超えて引き継がれていくべき公共財産です。これからも一本でも多く残していければと思います。



# 地域に生きる建築 普連土学園120周年記念館 (三田4-14-16)

2006年に完成、港区みどりの街づくり賞、公益財団法人都市緑化機構の第8回屋上・壁面・特殊緑化技術コンクールで環境大臣賞を受賞した普連土学園120周年記念館を訪れました。この建物は、一般教室、特別教室、教職員関連諸室、多目的小ホールなどで構成された校舎です。  
青木直人校長と建物管理担当の飯沼勉さんにご案内いただきました。



建物全体が緑化されている120周年記念館

## ■コンセプト

「簡素」「温かさ」「落ち着き」「誠実」これらはキリスト教フレンド派の日本唯一の中学校・高等学校として、創立以来120余年に渡って普連土学園が大切にしてきた精神です。本校舎はこの精神を継承し、設計されています。

## ■建物の設計・デザイン

建物の設計は株式会社山下設計が行っています。建物周囲にバルコニーがあり、バルコニーの外側に円柱の列柱を設け、既存の中学校舎のデザインに調和するように設計されています。

内部の床、壁には木がふんだんに使われ、外部はレンガやテラコッタなどの自然素材や打ち放しコンクリートで構成されています。

建物内部や屋上庭園、バルコニー、ライトコートなどには、普連土学園独特の温かい雰囲気を出す「生徒の語らい場」が随所にあります。また、地下には落ち着きと静謐さを保った礼拝専用の施設として静黙室があります。



静黙室



内装に木材が多用されている



ピカピカに維持された教室



生徒の語らいの場

## ■緑化のデザイン

屋上庭園、バルコニー、ライトコート、アプローチ、学校擁壁等、校舎全体を一体的に緑化した取組をしています。生徒の個性と対話を重視する教育方針に基づき、150種類以上の植物を選定し、花や葉の形状・色・香りなどの個性を活かしつつ、調和のとれた植栽計画を行っています。また、地域との繋がりを重視して学校擁壁の圧迫感を軽減するため2段擁壁とし、多彩で緑量豊かな植栽を行うとともに、校舎バルコニーの軒先にヘデラを植栽し、教室の窓からは下に垂れる緑を、グラウンド側からは緑が校舎壁面を覆っている様子を見せるなど、建築とランドスケープをつなぐ工夫を行っています。



地下階の緑化の様子



屋上緑化の様子

## ■維持・管理

植栽の維持・管理は、屋上庭園、バルコニー、ライトコートでは雨水貯水槽を設け自動灌水を行うなど、生徒や学校関係者の細やかな管理により、多彩な植栽を質の高い状況で維持しています。バルコニーの土は数年に一度入れ替えを行うそうです。

## ■取材を終えて

建物が建てられて10年以上経ているのに、教室、廊下の床、壁などに汚れやゴミが一つもなく、ピカピカに維持されているのに、驚きました。生徒さんたちがすべて清掃を行っているとのことでした。

生徒さんたちに普連土学園の精神が息づいているのを感じました。

建物の緑化は春になるともっと見応えがあるのではと、再度訪問したい気持ちです。

(担当/安藤、土屋、滝川、森)



## この街にこの人あり

作曲・編曲家 服部 隆之はっとり たかゆきさん

## パリでの留学経験で得た引き出しから音楽を生み続けています

もしも、ドラマや映画から音楽がなくなったら——。「真田丸」「半沢直樹」といった、ドラマに欠かせないテーマ曲などを生み出してこられた背景にはどんなものがあったのでしょうか？

**おじい様から3代続けて作曲家をされているそうですね**

祖父は流行歌を多く手掛けていましたが、元々クラシックの先生から教わっていたこともあり、後に交響詩などもつくっていましたね。父にもその影響があつて、パリに留学して学び、インストゥルメンタルを中心にしていました。

**隆之さんもパリに留学されていますよね**

1983年からパリの国立高等音楽院で「和声法」と「対位法」を学びました。和声法は音同士の縦のつながりを学ぶもので、ハーモニーの勉強です。歴代の作曲家、ここではフランス人の作曲家の和声のスタイルを1年に1人ずつじっくりと研究しました。そうすると、だんだんと

自分のものになっていくんです。

一方の対位法は横のメロディー同士のつながり。3つ4つのメロディーの重なり合いを学びます。例えば、バッハが特に凄くて、最高で8つのメロディーが重なる曲もあるほどです。そういうものを勉強して、感覚を養いました。メロディーを書く勉強になりましたね。

**パリ留学時代は楽しかったですか？**

楽しかったです。パリだと他の国との距離が本場に近いです。例えば、スペイン料理屋に行けば、スペイン人が働いています。日本だと中華料理屋のような感じ。週末には気軽に安くロンドンにも行けるのでよく行きました。アフリカなんかも近いんですね。コンサートや映画も安く観ることが出来て。そうして、20歳前後の時期に色々な文化体験をすることが出来たことは、引き出しを増やすという意味で、今の仕事にとってもプラスになっています。

**ところで、ご自宅ではいつも音楽が流れているのですか？**



【プロフィール】 服部 隆之 (はっとり たかゆき)

1965年生まれ。高校を中退し、フランス・パリ国立高等音楽院に入学する。同院修了後に帰国、音楽家としての活動を開始した。編曲家として活動する傍ら、1990年に映像音楽デビュー後は作曲家としても頭角を表し、1996年と1998年に日本アカデミー賞優秀音楽賞を受賞した。金管楽器やバイオリンを用いての音楽を得意としており、オーケストラ編成を用いての収録を主に行っている。祖父は服部良一、父は服部克久。娘はバイオリニストの服部百音。

そんなことはないですね(笑)。でも、

時々「食事中にもモーツァルトがかかっているんじゃないか」と言われます。実は、作曲をするときも、ピアノはあまり触らず、頭の中で構成するんです。頭の中だけでは難しいときだけ、ピアノを使って確かめますね。私のように商業音楽を作っているのと、どうしても締め切りつものがあります。ピアノをずっと弾いていると、いろんな曲を弾いて遊びだしてしまうんです。なので、家は普通に静かですよ。

**お父様からは、最初から音楽家として育てられたのですか？**

そのつもりではあつたと思います。ただ、そんなに珍しいことではなかったんですよ。私は1965年生まれで、当時は男子でも小さいころからピアノを習っている人が多かったんです。私も、4歳の時からピアノを習っていました。友達にもそのような子は割とたくさんいました。

**お仕事はどのように進められていますか？**

私は、作曲は手書きで行っています。下書きをしたものを写譜屋さんに渡して、清書してもらっているんです。ちなみに、私がお世話になっている写譜屋さんは、元々祖父のお弟子さんだった方なんです。ご自身は音楽家にはならず、写譜の道に進まれたという方ですね。

仕事が重なったときは同時進行を進めることもあります。ただ、同じカテゴリーのものは同時にはやらないようにしています。例えば、喜劇2つとかね。

今まで作曲した曲の数は、2000弱くらいでしょうか。そんなに多くはないですよ、祖父や父はそれこそ5000、6000と書いていますから。

**お父様と仕事のお話をされることはありますか？**

以前食事をしたときに、私たちは虚業だという話をしました。私たちの仕事って必要とされるから存在するんです。音楽家という資格を持っているわけでもない。仕事をもらえなければ無職という意識を常に持っている。だからこそ、仕事がもらえたらこんなにも嬉しいことはないと感じます。自分の作った曲に「こうすればよかった」という後悔は絶えませんが、曲を書くことは楽しいです。

**高輪地区の住み心地はいかがですか？**

私は結婚3年目の、2000年の暮れあたりに白金に引っ越してきました。祖父が以前白金三光町に住んでいたと聞いていたので、その時は「帰ってきたね」と話をしました。

特に、交通の便が良くて助かっています。私、車の免許を持っていないので。地下鉄やタクシーを使ってすぐに仕事場に行けるのは助かりますね。

私もお酒が嫌いではない人間なので(笑)。いいお店がいっぱいあるところもいいですね。徒歩圏内に気晴らしとしてよく行きます。

散歩もよくします。ここを回れば1時間というコースを持っているので、そこを歩きます。そうすると、作曲で悩んでいた部分を思いつくこともあります。

**住んでいるからこそ分かることもありますか？**

プラチナ通り(外苑西通り)とか、よくテレビでも取り上げられるじゃないですか。でも、そんなのって白金の魅力の100万分の1くらいですよ。下町風情というか、四の橋商店街(白金商店街)のあたりとか、懐かしい感じがします。

まぶしいイメージより、緑が多くて静かで親しみやすい、丁度いい印象です。**これから新たにやりたい仕事はありますか？**

オペラをやりたいと思っています。100分くらいの短いものでいいんですけど、喜劇の要素を持った、僕にしかできないオペラを作ってみたいですね。**最後に、これから音楽家を目指す若い方に何かメッセージをいただけますか？**

職としては、最近人気のゲームのプログラマーなんかと同じですね。ラッキーなことなんてありません。必要なのはインプット。日々の仕事もするけど、その中で準備を怠らずに生きるしかありません。必ずはない世界だから、華やかとは必ずしも言えないです。

知らないことって意外とたくさんあります。普段あまり見ないものから発見することもあります。常にアンテナを張ってキャッチアップすることが大事です。

**取材を終えて**

服部さんの音楽は、パリ留学での経験などの文化体験に支えられていることが印象的でした。音楽のことだけでなく、白金の街に関しても熱心に話してください、和気あいあいとした取材になりました。

(担当) 戸部田、松島、伊関、安藤、明石、佐藤、森



スタジオにて



あしあと

地区の  
宮邸の宮邸がありました。今号  
わられている土地の面影をたり、皇位継承を補佐する家で、  
治中期に掛けて十三家に増え、  
続いた。多くの宮邸が建てられた。この地  
の海を見渡す風光明媚な土地で、  
居から離れたこの地に邸を構え  
明治21年完成の明治宮殿が旧西  
中心が南にずれたことや、この時  
より都市東京の範囲が拡大され  
またこの時期に宮家が増えた理由  
香適齢期に差し掛かり、相手を皇

『家と宮家のお屋敷』平凡社  
『宮家の記憶 山階宮家三代』吉川弘文館  
『図集』  
『まじりこ、mamoru、阿部海太郎 『庭  
の6つの物語』 東京都庭園美術館  
『夫人・鍋島紀久子が見た激動の時代』

Bパブリッシング

## 3 旧華頂宮邸 (亀塚公園・三田台公園) (三田4-16-20)

華頂宮家は1868(慶応4)年に伏見宮邦家親王の第12王子、博経親王によって創設された宮家で、屋敷は三田4丁目16番20号に所在した。現在は当時の外壁を残し屋敷跡は公園(亀塚公園・三田台公園)となり一般に開放されている。

華頂宮家は第4代博忠王が1924(大正13)年薨去し、博忠王に子女が無く華頂宮家は断絶した。その後、華頂宮博忠王の弟にあたる伏見宮博信王が1926(大正15)年に20歳で臣籍降下し、華頂侯爵家を創設し、華頂宮家の祭祀を継承した。

現在、鎌倉市浄明寺にある「旧華頂宮邸」は華頂宮博信侯爵邸として1929(昭和4)年に建てられたもので、1996(平成8)年に鎌倉市が土地と建物を取得し、2006(平成18)年には国の登録有形文化財(建造物)に指定されている。



今に残る外壁の全景



敷地内に残る井戸。関東大震災時は大変役立ったと伝えられる



鎌倉市にある「旧華頂宮邸」南側



「旧華頂宮邸」の建物を背にみるフランス式庭園

## 4 旧高輪南町宮邸 (高輪3-13)

この地は薩摩藩下屋敷だったが、明治になり、明治の元勳後藤象二郎が、島津家より4万坪を譲渡される。1898(明治31)年皇族の仮住まい用の土地として買い上げられた。1910(明治43)年、天皇家の御殿だったこの地が分け与えられ、北白川宮、竹田宮、朝香宮(白金へ移転②)、東久邇宮(現存せず)のそれぞれ明治天皇の内親王が降嫁した4つの宮家の邸宅が次々と隣り合って建てられた。

## 5 旧北白川宮邸 (グランドプリンスホテル新高輪)

1870(明治3)年創設。1909(明治42)年の房子内親王の降嫁を機に、1912(明治45)年に高輪に新邸を建築。現在、門と塀が残る。

## 6 旧竹田宮邸 (グランドプリンスホテル高輪「高輪 貴賓館」)

1906(明治39)年創設。1908(明治41)年昌子内親王の降嫁を機に1911(明治44)年に建築。1911(明治44)年に完成。洋館はグランドプリンスホテル高輪「高輪 貴賓館」として現存する。この洋館の設計が始められたのは1907(明治40)年で、東宮御所(現迎賓館)の竣工間際に当たり内部装飾には共通点が多い。





## 1 旧高松宮邸（高輪皇族邸）（高輪1-14-1）

旧熊本藩細川家の中屋敷であったこの地に、1891(明治24)年、明治天皇皇女常宮、周宮が移られ高輪御殿と称された。1913(大正2)年、皇太子裕仁親王(後の昭和天皇)は、東宮仮御所として、1921(大正10)年までの間過ごされる。1923(大正12)年の関東大震災により高輪御殿は全焼。

1927(昭和2)年、高松宮様がこの地に移られた。1930(昭和5)年徳川喜久子様とご結婚され、ご夫妻で過ごされた。

### 太平洋戦争後の高輪皇族邸

太平洋戦争後、広大な敷地は高松宮様の意によって縮小され、払い下げられた場所には港区立高松中学校や都営高輪一丁目アパート、松ヶ丘住宅地、高輪地区総合支所、宮内庁官舎などが建てられた。高松中学校の校旗も高松宮様ご自身がデザインされた。一時期、夏になると、宮邸の庭にあったプールも高松中学校の生徒たちや近隣の子どもたちに、開放されていた。子どもたちが遊ぶプールサイドに高松宮ご夫妻がお見えになり、子どもたちの元気な声を聞くのがとても楽しみと妃殿下は感想を述べられた。このプールで1950(昭和25)年の夏、戦前のロサンゼルス・オリンピック大会水泳競技優勝者北村久寿雄を迎えて模範水泳を高松中学校全校生徒に見せたことがある。

敷地内にあった本館も、「光輪閣」として改装のうえ一般開放された。光輪閣はかつて駐日外交官のパーティや結婚式場などとして貸し出された。高松宮ご夫妻は小さな平屋建ての木造住宅に住まわれていた。1972(昭和47)年、光輪閣は老朽化のため取り壊された。翌年、跡地に再び平屋建ての宮邸本館を建設され、高松宮ご夫妻が住まわれた。1987(昭和62)年、高松宮様が薨去された後は、妃殿下がお一人で住まわれていた。2004(平成16)年、妃殿下が薨去された後は、利用されていない。

現在の高輪皇族邸  
現在、高輪皇族邸は宮内庁が管理している。2019年、今上天皇が退位し上皇になられ、東宮御所にお移りになることが予定されているが、東宮御所が改修工事を行う間、仮御所として高輪皇族邸に住まわれることになっている。



旧高松宮邸



旧高松宮邸の正門



高松中学校の生徒たちがプールで泳いでいるのをご覧になっている高松宮ご夫妻



かつて高輪地区には数多く... では区内の旧宮邸と言... 探ってみました!



「宮家」とは天皇家の親戚にあ... 成立は室町時代。江戸期から明... 1947(昭和22)年の皇籍離脱まで... 明治後期になって、高輪地区に... は東京南部の高台で、元々品川沖... 当時の財閥の屋敷も多かった。皇... ることを可能にしたのは、1888(明... の丸南側に移ったことで、政治の... 期自動車の普及や市電の整備に... ていったことなどが考えられる。ま... として、明治天皇の内親王が結婚... 族に限ったためとも言われる。

### 〈参考文献〉

- ・小田部雄次『天皇と宮家』新人物往来社
- ・岡本哲志監修『古地図で歩く 天皇家』
- ・学習院大学史料館『写真集 近代皇族』
- ・港区教育委員会『増補港区近代沿革』
- ・朝吹真理子、福田里香、小林エリカ、高輪地... 園美術館へようこそ 旧朝香宮邸をめ... 協力 河出書房新社
- ・北風倚子『朝香宮家に生まれて 侯爵... PHP 研究所
- ・鈴木博之、和田久士『皇室の邸宅』JT

## 2 旧朝香宮邸（東京都庭園美術館）（白金台5-21-9）

### フランス文化に影響を受けた鳩彦王、允子妃

朝香宮鳩彦王と允子妃がフランスに長期滞在中の1923(大正12)年9月に関東大震災があり、住まいの高輪南町邸(現 京急 EX ホテル)が倒壊した。既に1921(大正10)年に白金御料地と呼ばれた土地が皇室財産となり、朝香宮鳩彦王が土地を賜り新居を構えることになった。

長期滞在でフランス文化に深く触れ、また帰国前に見学された1925(大正14)年パリの「現代装飾美術・産業美術国際博覧会(通称 アール・デコ博覧会)」で心を動かされ、旧朝香宮邸は同様式で1929(昭和4)年設計、1931(昭和6)年着工、1933(昭和8)年5月竣工した。帰国後の生活もフランス風に一変し、日常会話もフランス語を使ったと言われている。

允子妃は宮邸建設時パリの建築家と手紙のやり取りをし尽力されたが、住み始めて半年後に腎臓病で薨去された。

朝香宮邸は仲がいいお二人の長期滞在中の思い出が詰まった邸宅なのかもしれない。

### 戦後の朝香宮邸

1933(昭和8)年から1947(昭和22)年の皇室離脱まで朝香宮邸として使われたが、当時外相だった吉田茂が外務大臣公邸として使った。その後、白金迎賓館、白金プリンス迎賓館として結婚式場となり、1981(昭和56)年東京都に売却され、1983(昭和58)年東京都庭園美術館となった。

1983(昭和58)年から一般公開しており、2017(平成29)年11月にはエレベーターが設置されるなど、館内はより見やすくなり、また春には桜、秋には紅葉が綺麗な庭園もある。



1933年竣工当時の朝香宮邸  
(写真提供:東京都庭園美術館)



竣工時と変わらない  
現在の庭園美術館正面



地域で活躍する

若者たち

《地域に開かれた茶道部》—北里大学白金校舎薬学部茶道部—

白金いきいきプラザで毎週行っているという、茶道部のお稽古の様子取材しに伺いました。

和気あいあいとしたお稽古

茶道部のお稽古は、白金高輪駅近くの白金いきいきプラザで行われます。3階のお茶室で週に一度、集まって稽古しているとのこと。取材当日いらっしゃったのは女性7名でしたが、部には男性も3名おり、総勢14名で活動しているそうです。

私たちも席入りし、お点前を頂戴しました。ひとつひとつの動作に気を配り、丁寧に行われる美しいものでした。また、席中でお菓子も振る舞われます。このお菓子、公式な行事では練り切り等の本格的なお菓子を部で用意するそうですが、普段のお稽古では部員が買ったものを持ち寄っており、たい焼きが出たこともあったそうです。



茶道部のみなさん



一挙一動が美しいものでした

おもてなしの心

昨年10月の北里大学での学園祭で茶道喫茶を出店した際にも、お抹茶とお菓子を販売したそうです。喫茶はとても好評で、来場者アンケートでなんと1位を獲得し、表彰されました。

普段からおもてなしの心を持ってお茶を点てている茶道部のみなさん。短い時間お話しさせて頂く中でも、その心に触れることが出来ました。



美味しく頂きました

お知らせ

今年も茶道部のみなさんのご協力で、お茶会の体験ができるイベントが開催されます。是非ご参加ください。

～北里大学茶道部による白金茶会～

- 日時 平成30年3月31日(土) ①10:00～ ②11:00～ ③12:00～
  - 場所 白金いきいきプラザ 集会室B・集会室D
  - 対象 港区にお住まいの60歳以上の方
  - 定員 各回10名(抽選)
  - 費用 100円(席料として)
  - 申込締切 3月17日(土)
- 参加ご希望の方はお電話、または白金いきいきプラザの窓口にてお申し込みください。
- TEL 03-3441-3680  
(白金いきいきプラザ)



(担当/戸部田、松島、安藤)

私だって地域の一員!

シベリアン・ハスキー

チャービルちゃん/メス/7歳

タルトちゃん/メス/1歳半

精悍な顔立ち、バランスの取れた力強い体格で、怖いイメージを持たれがちなハスキーですが、友好的で優しい性格です。2匹のハスキー犬を、子どものように可愛いがっている藤原さんにインタビューしました。



左)タルトちゃん 右)チャービルちゃん



飼い主 藤原成芳さん・賀子さん夫妻  
高輪二丁目在住

チャービルが家に来た時は体重3kgで、今は32kgです。とてもしっかりしておだやかな性格です。タルトは体重17kg、まだまだ遊びたい盛りのお転婆娘。チャービルをお母さんのように慕って甘え、時々羽目を外しすぎて怒られています。散歩は朝夕2回一時間ずつで、休日は4人全員

と一緒に歩きます。暑さに弱い犬種なので、夏は日の出とともに出かけます。私たち夫婦はドライブが好きで、よく犬達を遠方の涼しい場所へ連れていきます。夏は東北のキャンプ場や白馬などですごしますが、犬達は大喜びです。好物は2匹ともチーズ。私達にとっては、大事な家族で、いつまでも仲良く一緒に暮らしたいです。チャービルもタルトも、他のワンちゃん大好きです。道で見かけたら、遊んでやってください。

(担当/森、土屋、滝川、佐藤)



# みなとっぴ子ども編集室



昨年11月11日(土)に開催された「輪い輪まつり&あっぷリング高輪フェスティバル」にて、みなとっぴ子ども編集室の5人の子ども記者たちが大活躍!2グループに分かれて、区民編集メンバーやボランティアスタッフのサポートのもと、元気いっぱい取材をしました。実際にイベントを楽しみながら、インタビューや写真撮影をし、子どもたち1人ひとりが内容からレイアウトまで全て一から考えて記事にまとめてくれています。子どもたちならではの視点から書かれた想いの詰まった記事は発見がいっぱいです。ぜひご覧下さい!

## クルクルスタンドグラス

ぼくは、土曜日にクルクルスタンドグラスを作りました。2まいのへんこう板を使って作りました。へんこう板はテレビの面に使われています。2まいかさねて、まいを90度に回すと、はい色だったへんこう板が黒色になりました。今度は、1まいのへんこう板にセロハンテープをはってもうまいかさねるとテープが光ってきれいな色になります。



わたしもようすけくんと同じ、クルクルスタンドグラスと言う、へんこうばんをつかた、まんがきょうのような物を作りました。つかう物は、へんこうばん、セロハンテープで作りました。へんこうばんは90度回すと、黒くなったり、とうめいになたりします。じつは、へんこうばんは小さなあなでセロハンテープはぐるぐる回して、光はなみのやくわりをしています。今回は、工作のことと、理科のことを知り、べんきょうのことも知り、楽しくできたのでうれしかったです。



●桑田 陽介記者(小3)、有川 由紀美記者(小3)

## おっねんだんしチアリーダー

大きなたいこをたたいて、大きな音をきいてびくびくした。チアリーダーの人のおはなしたさいふ、ひゅんりかりめんしゅうしている。大きなこえをだせるようにめんしゅうしている。



## 地いきの交流

高輪区民ホールで、高輪輪い祭りが行われた。その中では、熊本県や神奈川県など、東京者より遠い県から色々な人達が来た。地いきの交流を通じ、高輪・東京・世界がよくなると思ふ。



●見城 裕隆記者(小4)

## じてん車シミュレーター

どうろのはしによりすぎ、いてんしゃがたおれちゃた。どうろをまがることがおずかしかた。いぶんでちゃんとはしるのがた"せつた"とおもった。じてん車シミュレーターでやったマナーをまもりたいです。



●妹尾 正唯記者(小1)、藤田 碧記者(小1)

### 安藤編集長から一言

子ども記者のみなさん、取材に、原稿書きに、がんばってくださいました。自分が体験したこと、感じたことが素直に表現されています。できた紙面の自分の記事を見て、考えることがさらに進歩するきっかけになりますよ。



区からのお知らせ

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。事前にご確認ください。区民課窓口サービス係 ☎5421-7612 / 保健福祉係 ☎5421-7085

高輪地区 防災ボランティア養成講座 参加者募集

地域防災力向上のため、高輪地区在住者及び地区内大学の学生を対象に、北里大学、東海大学、明治学院大学と連携し災害時ボランティアに必要とされる知識の習得及び訓練を実施します。

受講生及び修了生は、「地域支援チーム」の一員として防災訓練や地域行事に参加し、地域との交流を深め災害に備えます。なお、防災ボランティア養成講座を修了すると、防災士の資格を取得するための「防災士養成講座」(防災課主催)を受講できます。

※詳細は港区ホームページや広報みなと(4月11日号)に掲載する予定です。



総合防災訓練(高輪会場)の様子

【問合せ】 高輪地区総合支所 協働推進課協働推進係 TEL:5421-7621

震災復興講演会 「震災復興を考える」

～地域で取り組む事の大切さ～

震災復興について阪神・淡路大震災や東日本大震災で復興に取り組まれた方をお招きし、実体験に基づいた講演やパネルディスカッションを行います。みなさまも「復興」について考えてみませんか。なお、白金5、6丁目で開催した震災復興模擬訓練の経過等についても展示を予定しています。

どなたでも参加できますので、電話で下記までお申し込み下さい。(200名まで先着順)

日時 3月18日(日)午後2時～5時

場所 高輪区民センター 区民ホール

講演者 塩崎 賢明氏 (立命館大学 政策科学部特別招聘教授) 鈴木 英司氏 (元福島県いわき市 副市長)

【申込み・問合せ】

街づくり支援部 都市計画課街づくり計画担当 TEL:3578-2210

高輪地区総合支所 協働推進課 まちづくり推進担当 TEL:5421-7664



みなとタバコルール

吸う人も 吸わない人も 気もちよく!



タウンミーティングTAKANAWA2018メンバー募集!!

支所で実施している事業に携わり、メンバーと一緒に考え、活動してみませんか?

対象 高輪地区に在住・在勤・在学の人、または高輪地区のために活動したい人

内容 タウンミーティングTAKANAWAのメンバーとしてそれぞれのテーマに沿って高輪地区で活動していただきます。

任期 1年間(平成30年4月～平成31年3月)

申込方法 希望するグループ名・住所・氏名・年齢・性別・職業(学校名)・電話番号・FAX番号・メールアドレスを明記し、郵送またはFAXで下記へ。

※2つ以上のグループへの応募は可能ですが、応募多数の場合は調整させていただきます。

締切 平成30年3月23日(金)必着

第1回会議日程 平成30年4月13日(金)午後6時30分～ 高輪区民センター1階集会室

【申込み・問合せ】

高輪地区総合支所 協働推進課 地区政策担当 〒108-8581 港区高輪1-6-25 TEL:5421-7123 FAX:5421-7626

募集グループ

Table with 4 columns: グループ名, 活動内容, 募集人数, 活動の頻度. It lists three groups: 地域情報紙グループ, 高輪今昔物語グループ, and 高輪みどりを育むプロジェクトチーム.

※報酬・交通費・取材費等の支給はありません。 ※会議の際に保育を希望する方は、ご相談ください。

地域情報紙



本紙のバックナンバーは港区ホームページ(高輪地区総合支所のページ)からもご覧になれます。 みなとつづき バックナンバー

編集だより

▼毎号「高輪地区情報紙みなとつづき」の取材に快く応じていただいた取材先のみなさまに、紙面を借りて心より感謝申し上げます。(安藤)
▼高輪地区の話題をお伝えする役割を写真を通してお手伝いしました。この時期は青空の日が多く建物が見えやすかったです。(土屋)
▼今なお残る数少ない旧宮邸が貴重な歴史的建造物として大切に受け継がれてほしいと思います。(吉田)
▼歴史の流れのなかで、高輪地区の旧宮家の存在は、重要な価値があることを実感しました。(明石)
▼服部先生のインタビュー、天才とは、自らの経験に基づく引き出しの多さと、努力の結晶であると思いました。(伊関)
▼元気いっぱいの子どもの皆さんの取材や編集の様子を見ていて、改めて記事の形にする楽しさを一緒に感じることが出来ました。(岩本)
▼迫力ある応援団、チアリーダーのお兄さん、お姉さんに真剣に質問をする子ども記者が印象的でした。(太田)
▼毎年11月、子ども記者たちの真剣なまなざしから元気をもらいます。今年もまた臨場感いっぱいの楽しいページができました。(梶)
▼服部さんが担当されたドラマ「王様のレストラ」。ご馳走を前にした時など、今でも頭にあのメロディが浮かびます。(佐藤)
▼朝香宮邸を取材しました。今回の取材を通じて宮家の歴史なども簡単ですが学ばせていただきました。今後多くのご興味を持っていきたいと思えました。ありがとうございます。(鈴木)
▼「普通士学園」、建物全体が緑化されている120周年記念館を訪ねました。内部の床、壁にはふんだんに木が使われ、学校のコンセプトの簡素、暖かさをいだんに木が感じました。新緑の時は、学校全体が緑で覆われてとても素晴らしいことでした。(滝川)
▼ドラマや映画の音楽は強く印象に残ります。ついに私も、テーマ曲を聴くために映画を観に行くことをしてしまいました。(戸部田)
▼地域の子どもの数も減り、自らの子どもたちも大きくなった今、「子ども編集室」のページを読むと、その可愛らしさにとっても癒されます。いつの時代も子どもたちの純粋なまなざしと明るい笑顔は周りの人々を幸せにしてくれる宝物です。(畑中)
▼それぞれが取材をして、初稿が出来上がった時、初めて全体が見えます。その時のドキドキ感と喜び、癖になりそうです。(松島)
▼飼主さんの細やかな愛情と適切なお世話で、ハスキーちゃん達は健康で穏やか。高温多湿の都会では飼育にいく犬種なのに素晴らしいと思います。(森)
▼子ども記者ならではの切り口で、私自身も多くの新しい発見がありました。(若生)
区民編集メンバー
安藤 洋一(チーフ) 太田 則義 畑中みな子
土屋 和夫(サブチーフ) 梶 昌夫 松島 佐紀子
吉田 由紀子(サブチーフ) 佐藤 雅子 森 裕子
明石 美穂子 鈴木 智絵 若生 愛香
伊関 則子 滝川 まりえ 渡邊 義信
岩本 菜穂 戸部田 伊織